

第1回 徳島市自転車活用推進計画策定市民会議 会議録

開催日時：令和6年1月22日（月） 13時30分～

開催場所：ホテル千秋閣 7階 鳳の間

出席者：委員18名

秋川委員、茨木委員（代理 益岡様）、岩朝委員、越谷委員、佐光委員、杉本委員
須見委員、関委員、大喜委員（代理 新開様）、中西委員、兵頭委員、福岡委員
藤森委員、松崎委員、山形委員、山中委員、山本委員、山本委員
事務局（道路建設課ほか）

傍聴人：0人

【会議の内容】

1. 開会

2. 都市建設部長あいさつ

3. 委員・事務局の紹介

4. 計画策定体制と設置要綱の説明 [事務局から資料1に基づき説明]

- ▶ 要綱12条第2項の規定により、互選にて山中委員が会長に就任
- ▶ 要綱12条第4項の規定により、兵頭委員が副会長に就任

5. 議事

(1) 徳島市自転車活用推進計画における取組状況及び今後の取組方針[事務局から資料2に基づき説明]

【会長】

「3.1 施策毎の取組状況」に書いてあるとおり、新型コロナウイルスの影響もあり、これからというものも多い。観光関係でサイクルステーションや案内表示について、具体的な検討は進められているか。

【事務局】

徳島県が県内統一デザインを検討中と聞いており、その方針が出た時点で整備を進めたいと考えている。

【会長】

徳島県が検討中の路面表示を使って市内のルート案内したいということか。

【事務局】

市内のルートというのは特には想定してない。今回の計画では、生活に関連した自転車利用を想定した整備を進めているところであり、観光面での整備はまだ難しい。まずは、矢羽根などで身近な自転車通行空間の整備を進めていきたい。

とはいえ、徳島市内にも鳴門徳島自転車道や阿南徳島自転車道があり、Tラインルートも通っているので、観光面の自転車通行空間の整備も進めていきたい。

【委員】

2点お伺いしたい。

「2.1 走る」における取り組み状況で、青いラインによる自転車の利用空間だが、整備後の状況は把握されているか。実は割れている箇所もたくさんある。私は常に自転車に乗る立場なので、自転車通行帯ができるのは非常にありがたく思っており、おかげで車も自転車を避けてくれる。しかし、自転車通行帯の青いところは、黒いところに比べると弱いような感じがする。細い車輪の自転車で通る場合、割れた青い舗装の箇所は、逆に危ない、というような意見が出ている。例えば、佐古駅から田宮街道へ抜ける道は、黒い舗装がよれて、青いところにひびが入ったりしている。

通行帯を整備したというのは非常に素晴らしいが、その後に検証していくことが重要。市役所の皆さんで難しいのであれば、自転車に乗っている私どもで意見を出すので、そういった意見をあげる場を作っていただきたい。

もう一つ、「2.4 活かす」における取組状況で、「Fun!Fun!とくしま」の「マユイチ」はすごく良いと思う。自転車乗りが好きな〇〇イチというネーミング。私はこのコースをランニングで使うが、自転車で行くとかなり細くなったり、迷ったりすることところがある。先程も山中会長がおっしゃっていた案内を整備することが必須だと考える。ただ、現状ではスポーツサイクルでないで周遊しにくいと、佐古エリア、名東エリア、加茂名エリア、八万エリア、二軒屋エリアなどといったかたちで分割することで、周辺住民の方がママチャリなどでも利用しやすいスポーツ空間を構築できると思う。その際、QRコードなどでポイントが貯まるようなしなかけを設置することで動機付けになりやすいと思う。

最後に質問です。「3.1 施策毎の取組状況」に書いている「アクセス数目標300件」の集計単位は何か。

【事務局】

累計である。

【委員】

もっとがんばりましょう。年だと、桁があと2つ欲しい。

実は私、「マユイチ」や「Fun!Fun!とくしま」を知らなかったもので、一般の方に使っていただくのであれば、もう少し広報活動が必要であろう。Facebookなどを通じて発信するシステムを作られると、もっとアクセス件数が増えると思う。非常に良い取り組みだと思うので、もっと知らせていきましょう。私達も努力する。

【会長】

「マユイチ」は相当な細街路。私も走りましたが、かなり曲りくねっている。曲がる交差点だけでも誘導やサインがつくだけでも全然違うと思う。

今回、事故件数も示されているが、来年度以降に始まる「取り締まり」もかなり重要になってくるとされる。「取り締まり」についての意見はないか。

【事務局】

今回の計画見直し段階ではそういう方針になるということだけであったため、道路法の改正などの後、次の改定のとときかには何か示せるのではないかと考えている。

【会長】

これからは、取り締まり件数といった数字も出てくると考えられるため、今後の動向やデータをモニターしていくことを想定して欲しい。

【副会長】

恐らく、自転車交通量が増えるということは、自転車関連の事故件数も増加傾向になると考えられる。

できれば、自転車の交通量も指標として取り入れ、それに対しての事故件数がどのように推移するかを把握すべき。何か現状で自転車交通量を測ったりしていれば教えていただきたい。

【事務局】

自転車通行空間を整備する際、その路線をどのような形態で整備するかを検討するために路線毎の交通量を調査するが、全体的な調査は行っていない。

【会長】

自転車の交通量把握は、他の自治体でも困っている。監視カメラで、幹線道路だけでも季節別に推移を把握したいところ。道路交通センサで調査しなくなったため、どこが多いのかが分からなくなってしまった。シェアサイクルが全面的に動いている都市だと、そのデータを使って、ヒートマップなどが作成できるが…。経年的な変化、どこが多いか、その2つが知りたいがなかなかデータが無い。

案内表示の話に戻るが、徳島県は今度できる大鳴門橋自転車道から鳴門徳島自転車道もしくは、トライルート、吉野川沿いなどを整備されていくと思う。その手法は、今度開かれる大鳴門橋自転車道検討部会で提案されるはずであるが、「マユイチ」などといった市独自のルートをどのように整備していくかが課題。徳島県と同じものとするのか、少し変えるか、市として売り出したいルートがあるならば、そこを検討していただければ良いと思う。

サイクルステーションについては、まだ場所も決まってない状況であるが、特にサイクルステーションと言わなくても、拠点になりそうな場所ってというのは何か所か出てくる。まずは徳島駅などをステーション化して、空港やゲートとなりうる施設、流行の場所などをピックアップしておく、市がやらなくても、民間が色々やってくれる可能性がある。

駅の駐輪場については、順次やっていただいているようであるが、JRさんとしては何かあるか。

【委員】

駅の駐輪場については、資料にもあるように市内で整備が残っているため、引き続き協議をさせていただき。

私の方からは、自転車を活用する上で、日常使いの自転車をいかに活用していくかが課題と考えている。自転車の分担率が全国で第3位の20.2%とあるが、あまり実感がない。そこで、県内の自転車保有率を見ると、全国平均を上回っており、家庭で眠っている自転車が多くあることが推察できる。そういった自転車を有効活用していくのが活用推進計画のポイントの1つではないかと考える。

特に徳島県の場合、どこに行くのもこの自動車を使う割合が高いところであるため、公共交通との連携や自転車を活用することのメリットを広報していく必要があると思う。

コロナ禍でマイカーヘシフトされた方もいると思われるので、今こそ啓発が必要。

【会長】

全国的に、自転車の通勤利用を促進する動きがあり、そのためにガイドラインなども出ているが、どこの自治体も悩んでいる。

徳島県内では、渋滞対策協議会がパーク・アンド・サイクルライドを松茂町広島のランプでやっている。こういった取組を渋対協がするのは珍しい。

他県では通勤に自転車を推奨している事業所などを表彰・認定する制度をしていたりする。今、市の計画にはそういった取組が入っていないので、何か少しもう頑張ってくださいと自転車利用が増えるのではないと思う。

【委員】

ホームページを拝見したが、「Fun!Fun!とくしま」や「マユイチ」は大変楽しそうである。

「2.2 守る」における取り組み状況で、交通安全教室が幼児生徒、保護者等、高齢者の3つに分類されている。私達は特に乳幼児を支援している団体で、今はアミコビルにある「すきっぷ」を運営している。その利用者は0～1歳が非常に多く、お母さんたちはベビーカーから自転車デビューするのをすごく楽しみにされている。そのような子育てファミリー向けの交通安全教室というものがあるのか。さらに、ベビーカーから自転車デビューする方への子供乗せ自転車の選び方、子供の乗せ方、ルールなどを学べる機会の有無を教えてください。

他では子供乗せ自転車ガイドといった制度があるが徳島にはあるのかを知りたい。

【会長】

子供乗せ自転車は日本独自のものであり、外国人が見ると驚くほどである。

【委員】

インターネットがなかった頃は、私どもから色々提案していたが、今、自転車デビューを考えている方は、当店へ来るまでに色々インターネットで利用者の声などを調べている。自分の移動距離などを考えてからご相談いただく方が多く、実はもう二つぐらいに絞られている方が多い。保育所の先輩ママ・パパから情報を入手されている方も多い。

また、子供を乗せるのは、どちらかと言えば、最初は前です。子供は自転車に乗せるとすぐ寝るため前に乗せて、ちゃんと言葉が通じるようになってから、もしくは、体重が10キロを超すようになると後ろという区分がある。また、自転車は1人乗り用、2人乗り用、3人乗り用があるため、用途に応じて検討いただければと思う。

子供乗せ自転車に特化した安全教室に関しては、無いと思われる。子供乗せ自転車は車体自体も非常に重いし、2～3人が乗っているため、すごく重い荷重が動いている。そのため、事故をすると、自転車に乗っている人も大きなダメージを受けるし、当てられた方も大きなダメージを受けることをお伝えした上で販売している。

また、親御さんは、子供には必ずヘルメットを購入するが、ご自分のヘルメットを購入されないケースが多い。しかし、「親御さんが被らないと、もしもの時に子供だけ残っても困りますよ。」ということ伝えて、どちらのヘルメットも購入していただくことが多い。

そういったことを踏まえると、活用推進計画にも、ヘルメット着用率を上げるということを入れるべきと考える。努力義務という他被らなくてもよいようなイメージを受ける。小学生は全員被っている。当店の前を通って内町小学校へ向かう子や野球へ行ったりする子は、全員被っていて、交通マナーは非常に良い。

そのため、安全教室が必要なのは、そういった親御さんと高齢者だと思います。高齢者の方はどうしてもフラフラ運転している。フラフラしない乗り方もあるので、そういったことを教える機会があると良いと思う。

さらに、自転車を愛好されている方への安全教室があっても良いと思う。実は、徳島市には実業団の自転車チームが2つあるが、その2チームの人間から、「こんな場合は道交法上どうなんですか。」とよく聞かれる。その場合、「私は自転車屋なので分からない。」と答えるが、日常的に疑問や不思議に思いながら乗っていることも多いため、そのような疑問を解消できる機会があれば有り難い。徳島市の活用推進計画にはならないかもしれないが、松茂町の運転免許センターのコースを使って練習させてもらうと一番有り難い。ニーズは必ずある。

【委員】

子供乗せ自転車の年齢だとか基準については、自転車組合のホームページに県警が情報発信した内容だとかを閲覧できるようにしているので、参考にさせていただきたい。県警のホームページにも様々な情報があると思うが、自転車に関して言えば、組合の方のホームページである程度の情報が収集できるかと思う。

個人的になるが、家が近いので「2.1 走る」における取り組み状況の市道常三島沖洲線をよく通る。この写真は幅が広いところを上手に撮っていると感じる。幅が狭いところも是非撮って欲しかった。住吉6丁目あたりはブルーラインの上を車が走っている状況にあり、決しても自転車が走りやすい道という認識は持てない。

これが果たして本当に良いのか、もしくはドライバーや市民から苦情がなかったのか、心配になった。

【事務局】

今のところ、徳島市には苦情は届いていない。

【会長】

利用者数などはまだ調べていないか。

【事務局】

調べていない。

【会長】

こういう整備をされた際には、なるべく街頭指導というかたちで、高校生が走る時に30分でも立っていただくと、効果が全然違うというのが言われているので、この幅や矢羽根の意義を教えていただきたい。高校の先生にやっただいていてある場合もある。今後、高校と協議して進めていただきたい。

【委員】

私は、高校の生徒指導連絡協議会の会長という立場で参加しているが、私自身はPTA会長を務めている。PTA会長は単年度制であるため、この会は今日が初めてであるが、日頃、生徒へ自転車の乗り方をご指導している側の立場から質問をしたい。

資料内の事故件数は、自転車関連事故というまとめ方をしている。これは、「自転車が車にぶつかられた事故」と「自転車が歩行者などにぶつかった事故」の合計であると思う。指導する側からすると、この二つは大きく異なっている。「ヘルメットを被りなさいというふうな指導」もしくは「歩行者への配慮しなさいという指導」、どちら指導も重要であると思うが、指導時の参考として事故件数の内訳・割合が分かれば有り難い。

【事務局】

ご指摘の通り、自転車関連事故件数は、自転車が被害者・加害者の事故件数を合算した値である。

【会長】

県警はその値を把握しているか。

【委員】

すぐには分からないが、1当・2当という整理で事故件数を記録しており、資料請求があれば開示できる。

ただ、指導については、自転車が被害者・加害者のどちらにもならないよう、全体的に指導していただきたい。

【会長】

「車対自転車」と「歩行者対自転車」の全国の事故件数は、圧倒的に「車対自転車」が多く、その割合は90%以上であったように思う。自転車に乗っている人が怪我する人が多い。ただ、1当・2当で言うと、どちらに責任があるかという集計である。この集計の場合、「車対自転車」でも自転車に責任がある事故もかなりある。東京などでは、自転車側に何らかの違反がある場合が多いため、取り締まりなどにより、自転車交通の安全を確保する必要もあるだろう。徳島県内での数字はよく分からないが。

「歩行者対自転車」の事故の場合は、圧倒的に自転車に責任があることが多い。歩行者に怪我や後遺症が残ると大変なことになる。このような事例を踏まえ、自転車保険も義務化されたため、自転車で通学している方々は保険に入っている状況にあると思う。

自転車は、自動車と同じ方向に走る方が自動車から発見されやすく、自転車の左側通行は自分の身を守る行為となる。車道に矢羽根を設置している理由は、これを推奨するためである。逆方向に走ると発見されにくく、特に交差点で車にぶつかってしまうという事例が多い。歩道を走るのが一番安全ではあるが、歩道を走ると歩行者を怪我させる可能性もある。

他の委員が言う通り、車が踏んでしまうような位置に矢羽根が設置されている場所も多くある。これは混在型と呼ばれる手法で、車に速度を落としてもらうことで、安全性を確保するものであり、全国的にも広く運用されている方法である。

自転車走行空間は、1.5mを確保したら十分であり、これを確保できている場合は矢羽根ではない表示になっている。そのような箇所は、自転車専用通行帯ということで、ルール上車は入ってはいけないこととなる。常三島沖洲線は、区間によりそれが変わるので少し分かりにくくなっている。佐古地区は自転車走行空間の1.5mを確保可能な整備が部分的にできている。

実は、矢羽根というのは、自転車走行空間を確保するのではなく、自転車が車と同じ方向に左側通行する場所であるという意味しかない。そこが自転車にとって一番安全な場所なので、そこを走ってくださいということです。

【委員】

現在、小中学校では子供に対しては、自転車の安全教育を行っているが、今後は先ほど話題にもなった親子を絡めて安全認知をしていただくようなイベントもやっていきたい。その場合、徳島県や徳島市、県警のどこへ問い合わせるべきか共有して欲しい。

サイクルイベントを実施されているということであるが、その告知等が我々には届いていない。また、自転車に乗られている方々がどのようなイベントを求めているかも問題である。子供たちは学校には徒歩で通学しているが、昼間の移動の多くは自転車である。そういったことを考えると、イベントにも参加したいであろうから、我々としてはイベント等の情報も得たい。そうすれば、交流もできるし、PTAとしても協力できる。

最後に、子供は自転車の扱いが荒く、痛みも激しいため、メンテナンスの指導があれば有り難い。また、我が家には小学校、中学校、高校と子供が3人いるため自転車の乗り換えが頻繁にある。資料内には、撤去自転車が減少しているとあるが、そういう自転車を再利用、活用して子供たちが使えるようにするシェアリングのような制度を企画していただけると、SDGsに即した活動ができるのではないかと考える。

PTAとして、色々と協力したいので、その辺の情報交換をお願いしたい。

【事務局】

資料内の交通安全教室のデータを出しているのは、市民生活相談課になります。

幼少期、中高、高齢者等、問い合わせ・相談があれば、それに対して交通安全教室を開催することになる。

私どものところには、現役の警察官も招いて教室を実施しており、ご相談いただければ、次年度以降にはなるが、ニーズに対応していきたい。

【会長】

イベントだけでなく、相談できる店舗を紹介するとか、ネット情報をうまく整理するなど、色々なサポートが可能と思うので、対応をお願いしたい。

【事務局】

資料内のイベントについては、文化スポーツ振興課が担当である。毎年10・11月に実施している徳島市民交流フェスティバルの中で、サイクリングを一つのスポーツ競技として実施している。内容としては、徳島市役所からみかん園の片道約19キロのサイクリングである。その走行距離から、低学年の参加は困難と考えられたため、小学校4年生以上で19キロ以上を自転車で走れるお子様を保護者同伴で参加いただいた。

これは、徳島市のサイクリング協会と一緒に実施いただいているスポレクフェスティバルであり、開催前にホームページ等で周知しているので、ご都合が合えば申し込いただければ有り難い。

【会長】

スポーツ振興だと、どうしても市民活動を振興するという形で無料になるため、もう少し楽しみの要素を入れつつ有料で、一般の人ができるぐらいのイメージで実施して欲しいということを徳島県にもお願いしている。自治体が楽しいことを無料でしてしまうと、民間での取り組みに弊害がでるため、両者が連携して頑張っていただきたい。

楽しんでいる自転車を増やすということが今の鍵になっているので、よろしく願いたい。

【委員】

サイクルツーリストの観点からお伺いしたい。サイクルステーションというのはどういうものを考えているか。

【事務局】

サイクルステーションに求められているのは、サイクルラックや水分補給できるような自動販売機・給水施設、トイレなどの休憩施設、メンテナンススペース、ルートマップや観光などの情報提供施設などが最低条件と考えている。

【会長】

ウズパークには、ちょっとした工具やサイクリストがちょっと休憩できるみたいな場所が作られていて、今度は大鳴門橋自転車道の周辺整備として、大鳴門橋架橋記念館エディに計画されている。少し休憩したり、自分で自転車を整備する空間といったイメージ。

その他には、温浴施設やホテルなどと連携し、自転車を組み立てたり、受けとる場所みたいな本格的な施設も各地にはできてきているので、温浴施設や大型ショッピングセンターの駐車場の一部を開放してもらい、サイクルステーションと称するなどといった展開もあろうかと思う。

そのため、徳島市のみで頑張らなくとも、例えばイオンと一緒にやって実施するといったこともあり得る。

【委員】

実は、これからイベントを開催していく予定で、東京大阪の人間を呼ぶためにルートを確認したが、徳島に入って来るルートが無い。東京の人間を50人呼ぶ予定であったが、ルートが無いため呼べずじまいであった。徳島に来たいという声はあるが、ルートが無いため、結局は車で来ることになる。その辺の環境整備を進めて欲しい。

【会長】

現実的には、南海フェリーに乗って来られる方が多くいる。

【委員】

私は大阪まで輪行で行くが、相当大変である。

大阪から鳴門、徳島駅でも良いので、そういうバス便を月1もしくはイベント前後で運行して欲しい。当店のお客様には、JRを使って東京から来られる方もいる。その方は高松まではJR、それ以降は自転車で走ってくるが、その方からバスは無いかと聞かれる。大鳴門橋はバス便があるが、明石海峡はジェノバラインしかない。

【会長】

やはり色々な方へ向けたサービスを準備しておく必要がある。そこは徳島県の仕事になろうかと思うが、徳島県が作ったロードバイクを20台載せることのできるサイクルキャビンをもっと活用できれば、そのような場合の解決策になろうかと思う。

【委員】

「マユイチ」や「Fun!Fun!とくしま」を今まで見たことが無かった。徳島の観光名所を調べる際はじゃらん、最近ではインスタグラムで検索することが多いと思われるので、Facebookよりは、最近のトレンドであるTikTokやインスタグラムを使って広報活動していても良いと思う。

【事務局】

「マユイチ」を掲載している「Fun!Fun!とくしま」は公式観光サイトということで運用している。

インスタグラムも「Fun!Fun!とくしま」と連動して運用しており、ほぼ毎日、何かしらの徳島の観光に関する記事をアップしている。「Fun!Fun!とくしま」は2022年4月から開始、時折、自転車のこともアップしており、サイト内のページビューは現在おおよそ9,000ページビュー、月平均450ページ程度である。特に「マユイチ」を大々的に押し出しているわけではないが、ページビューは伸びてきている状況。

そもそも、「マユイチ」は、阿波おどり踊り会館に来てもらえるようなきっかけを作れないか、というところからスタートしている。当初は、サイクリング主体ではなく、阿波おどり会館から眉山周辺を周遊する中で、いろんな飲食店、観光消費を喚起するためという企画であった。しかしながら、最近ではサイクリング目的でかなりご利用いただいているという感触である。

【会長】

ウォーキングやトレッキングのルートとしても十分面白い。自転車で走る人もいれば、歩く人もいて、この店に行ってみようという人もいて、といった戦略である。

先日、大学に徳島県知事が来た際、学生が徳島県のインスタグラムには食べ物が出ないと言っていた。食べ物が出ないと見ない層もいるため、このような戦略が正解であるように思う。

施策の目標としては、ホームページの訪問者数があげられているが、インスタグラムは考慮されていない。インスタグラムで情報を収集する人が増えて、ホームページを訪れる人が減っているのかもしれない。目標を見直した方が良いのかもしれない。

【委員】

会長が話されていた大鳴門橋自転車道は、令和9年度完成に向けて頑張っているところである。

当然、県外や国内外からの受け入れ環境の整備などについて、今週金曜日に開催する部会で検討予定である。鳴門市内になるが、サイクリングルートの設定・整備について、試走して検討することとしている。

案内表示は、鳴門だけでなく、県内各地へ誘導していく必要があると考えており、矢羽根やピクトなどのルール作りについて、委員の先生方から知恵を拝借して検討しているところである。検討結果については、徳島市と共有・連携することで、様々な人が徳島に来て楽しんでいただけるように整備を進めていきたいと考えている。

【委員】

自転車の取り組みというのは、ハード対策からソフト対策まで、かなり幅広い取り組みで構成された施策群なんだという印象を持ちながら聞かせていただいた。

特にハード整備という話になったときには、矢羽根のような走行空間を明示する取り組みから、走っていて歩いていて、安全に通れるまち作りも自転車施策の中に入っていると感じた。

また、ソフト対策の方では、市民の足という利用からサイクリング観光といったような広域を移動される方を対象とする取り組みというのも幅広くあると感じた。

広域的な取り組みの1つとして、我々が管理している吉野川を活用いただき、徳島県が提唱されているTラインの東西方向のルートとして使っていただけるよう、我々も可能な限り協力させていただきたいと考えている。また、旧吉野川を観光ルートとして、船と自転車がセットになった観光というようなことも関連市町と検討している。

【会長】

大鳴門橋自転車道関連の件で、旧吉野川に船着き場を計画している。そこまで自転車で行って、そこから折りたたんだ自転車を船に乗せてといったことを検討していただいている。その辺は大変面白い取り組みになりそうであるし、船で吉野川を経由して徳島市へ入ることも可能である。この町のメッカとなるようなイメージで考えている。

【委員】

うちの会員にもアンケートを取ってみたいが、私の知る限り、自転車に乗る高齢者は減っているように思う。

毎年、高齢者自転車安全運転競技大会が催されているが、徳島市内のクラブでは、数名の参加者が揃わない事態が発生している。私自身も歩くことが多くなって、自転車に乗ることはほぼ無くなった。

ただし、ヘルメットについては、割と装着しているように思う。最近、私のクラブの人で事故に遭って、頭は大丈夫であったが、足を骨折して入院した人がいる。高齢者の場合、入院するとかなりの体力が落ちるので、そのような事態を心配している。また、私は川内に住んでいるが、かつては2件あった自転車屋が今は無くなってしまった。

【会長】

最近では、60歳ぐらいからでもロードバイクに乗るような方もいたりする一方で、そういう方のルールも重要になってきている。また、電動系の自転車もたくさん出てきおり、これらが高齢者が使い始める可能性があるため、状況を注視する必要がある。

他に意見はないようなので、今後のスケジュールについて事務局からお話をさせていただきたい。

(2) 今後のスケジュール(案) [事務局から資料3に基づき説明]

【会長】

素案を3月の議会に出された後、パブコメといった流れである。

スケジュール的に集まるのが大変厳しいため、何か意見があれば、委員自身がパブコメするのも良いし、直接事務局へ連絡をしても良いであろう。本日いただいた細かなことも含めて、指摘いただきたい。

他に何か意見ないか。

【委員】

先ほど、SDGsを考慮して撤去自転車の再利用というお話があったと思うが、撤去された自転車の具体的な最終処分方法を知りたい。それらを中古車として安く市民の方にご提供するのも一つの方法であるが、防犯登録の問題もあると認識している。

【事務局】

徳島駅前の放置自転車に関しては、スクラップで処分をしているのと別に、状態の悪くないものについては、太陽と緑の会に引き取ってもらい、販売している。その一連の流れはずっと続いている状況である。

【委員】

太陽と緑の会に仕事をしていただくのは非常に賛成する部分ではあるが、防犯登録を正しく抹消できていなかったり、色々な問題点が少なからずあるように思う。実際にその自転車の安全面を懸念している。

【事務局】

防犯登録の確認などを行った上で、6ヶ月の保管期間後、公示、その中で状態の良いものについては、自転車を再利用していただき、それ以外はスクラップにしている。法的な手続きは問題なく対応していると思うが、自転車販売店が関与していない際の防犯登録手続き方法及び整備状況については、確認しておく。

【会長】

徳島大学も毎年、自転車を100台以上置いていかれており、6ヶ月雨ざらしにしたものを処分している。

同じような問題は、各所で発生しているように思われるため、良い知恵があればご教示いただきたい。

他に何か意見ないか。ないようであれば、これで本日の議題について終了させていただく。

6. 閉会

以上